

- がんゲノム医療
- 女性診療科にアスリート外来を開設しました!
- サルコペニアとがん
- 準個室(2床室)を設置しました
- Rapid Response System(RRS)をはじめました
- クリスマス会を開催しました

がんゲノム医療

腫瘍内科・腫瘍センター



がんゲノム医療とは

がん患者さん一人ひとりの遺伝情報をもとに抗がん薬などの治療法を選ぶ「がんゲノム医療」が始まっています。これはがんの治療法の選択に役立て、副作用軽減をめざすものです。これまでの検査では、解析するがん細胞中の遺伝子は1個から数個でしたが、一度に、数十個～数百個のがんに関係する遺伝子を解析するのが「がん遺伝子パネル検査」です。がんゲノム医療を推進するために、国はがんゲノム医療中核拠点病院とがんゲノム医療連携病院を指定し、当院は滋賀県唯一のがんゲノム医療連携病院に指定されました。

がん遺伝子パネル検査とは？

検査や手術などで保管されているがん組織や血液からDNAなどを抽出してがんに関連する遺伝子の変化（後天的な遺伝子変異）について解析するものです。結果は、エキスパートパネルと呼ばれる専門家委員会によって、遺伝子の変化が治療法の選択に役立つ情報が検討された上で、治療薬候補の情報の有無とともに担当医に報告されます。その情報には、国内で保険適応もしくは保険適応外の薬剤、治験等の情報も含まれます。しかしながら、検査対象となる遺伝子の変化がない場合やがん組織の状態などにより検査が不成功の場合もあり、一方、治療薬候補がないなど、治療の選択に役立つ情報が得られない場合もあります。また、遺伝性腫瘍の体質を持っている可能性を示す遺伝子の変化（先天的な遺伝子変異）の情報が見つかり、遺伝カウンセリングが必要になる場合もあります。

がん遺伝子パネル検査は様々な種類が登場していますが、多くは、標準治療がない、または、標準治療の効果がなくなった段階のがんや原発不明がんなどが対象です。現状では全額自己負担となりますが、がん遺伝子パネル検査の医療費の取り扱いや各検査の有効性については、最新の情報を入手して今後の動向を見極める必要があります。

当院におけるがんゲノム医療の取り組み

当院ではがん治療や遺伝医療に関わる専門診療科や多職種チームが連携して、がんの標準治療と先進的医療、ゲノム医療から緩和ケアによる生活の質（QOL）の維持を含めた希望の切れ目のない総合的がん医療の提供を行っています。がん遺伝子パネル検査については、がん相談支援センターもしくはまず担当医にご相談ください。

（腫瘍内科 教授・腫瘍センター長 醍醐弥太郎）

女性診療科にアスリート外来を 開設しました！

女性診療科

女性アスリート特有の健康問題

昨年、女子駅伝で競技中に疲労骨折をおこして倒れても、這ってタスキをつないだ選手が報道され話題になりました。

疲労骨折はアスリートにしばしば見られますが、女性アスリートの場合は「利用可能エネルギー不足」などが原因で月経不順、無月経になっていることがよくあります。その結果、女性ホルモンの低下により、骨量が低下し、疲労骨折を起こしやすくなります。

無月経のほうが競技生活に都合がよいと思っていたり、無月経になるくらい頑張ってお一人前のように考えている指導者もいるようです。しかし、ジュニアの頃から頑張ってお、高校や大学、企業スポーツでの活躍を期待される頃に、骨量低下が原因で疲労骨折などを起こし競技ができなくなることはとても残念です。

「利用可能エネルギー不足」とは？

運動によるエネルギー消費量に対して、食事等から摂取するエネルギー量が不足した状態。



「思春期月経異常／アスリート外来」について

当院では、2018年9月より、産婦人科医のスポーツドクターが、女性アスリートの競技力向上や月経異常に対し専門に対応する「思春期月経異常／アスリート外来」を毎週金曜日に開設しています。

体調がよく、エネルギーが上手に利用できているという状態を目指し、ホルモン剤を使いながら、試合や合宿のスケジュールにあわせて月経をおこしていくことができます。毎月きちんと月経がこないといけなくとも大丈夫です。月経と上手につきあって、スポーツのパフォーマンスをあげることを応援していきたいと思っています。



思春期月経異常／
アスリート外来担当
藤原睦子医師

また、アスリート以外の月経異常の相談も併せて対応しています。月経は規則的にきていても、月経前に、気分が落ち込みやる気がでない、体が重いという月経前症候群の患者さんはスポーツ選手以外にもよく見られます。これは、排卵後にでる黄体ホルモンの影響によるもので、低用量ピルで一時的に排卵を抑えて治療をすることができます。

お電話にて予約をお受けしております。
どうぞお気軽にお電話ください！

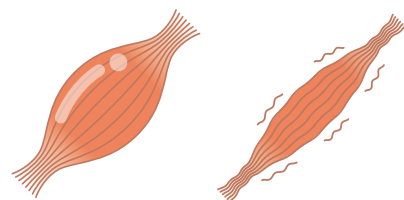
女性診療科外来 077-548-2576

サルコペニアとがん

消化器外科

サルコペニアとは？

サルコペニアは、筋肉が減少した状態であり、筋肉という意味のサルコと、失うという意味のペニアをかけあわせてできた、新しい言葉です。最近、テレビや新聞でも取り上げられて、注目されています。



通常の筋肉の状態

筋肉が減少した状態
=サルコペニア

サルコペニアとがんの関係



サルコペニアが注目されたのは、手術を受けた肝臓がんの患者さんで、サルコペニアの患者さんは、がんの再発率や死亡率が高かったというデータが発表されてからです。その後、肝臓がんだけでなく、胃がんや大腸がん、膵臓がんなどにおいても、サルコペニアの患者さんの再発率、生存率はよくないことがわかりました。

さらに、肝臓がんの患者さんは、筋肉の質によっても、再発率や生存率がちがいました。霜降りの筋肉（脂肪の多い筋肉）は、よくなかったのです。

栄養療法、運動療法の取り組み

当院では、肝臓がんの患者さんの術後に、長期にわたって栄養指導、運動指導を行っています。栄養療法と運動療法で、筋肉量を維持し、がんの再発率や生存率の改善を目指します。



肝切除後運動栄養療法プログラム (HENプログラム)
Hepatectomy Exercise Nutrition therapy program

滋賀医科大学医学部附属病院
消化器外科 リハビリテーション部 栄養治療部

準個室（2床室）を設置しました

5D病棟



2019年1月より、5D病棟に準個室を2室設置しました。準個室とは、従来カーテンのみで仕切っていた4人部屋を、間仕切り家具等で仕切った個室風の2人部屋で、プライバシー・機能面を充実させた病室です。また、個室（1人部屋）に比べ、ご利用いただきやすい料金設定となっています。

室料：2,160円／日



標準設備

- ・テレビ
 - ・冷蔵庫
 - ・クローゼット
 - ・机、イス
 - ・スリーパーソファ
 - ・チェスト
 - ・洗面台
- (プライベート式)

4人部屋を2人部屋にしているので、広々とした空間です。また、ロッカー・チェストなど収納スペースも充実しています。

Rapid Response System (RRS) はじめました



医療安全管理部

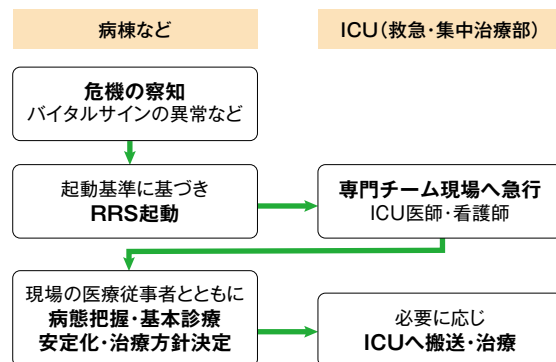
RRS (Rapid Response System) とは、入院患者さんが重症化する前にその徴候を発見し、専任者が介入することで、急変を防ぐことを目的としたシステムです。

いわゆるコードブルーは心肺停止（またはそれと同様な重篤な病態）になってから起動されるのに対し、RRSでは悪くなる前に起動されます。日本ではまだあまりなじみがありませんが、欧米ではすでに約20年の歴史があり、評価も定まりつつあります。

すべての病院職員がすべての患者さんに対してバイタルサインや何らかの異常を察知した場合、また何らかの不安や困ったことがあった際に起動されます。そして、直ちに救急集中治療部医師と看護師が現場へ赴き、現場の職員とともに病態把握と診療にあたります。

2018年11月より開始し、現在は平日昼間のみの対応ですが、今後徐々に拡げていきたいと考えています。

RRSの流れ



クリスマス会を開催しました

小児科

小児病棟では、毎年クリスマス会を開催しています。

2018年度は12月14日(金)に行われ、患者さん(ご家族含む)約20名が参加され、スタッフ・留学生を含めて約40名ほどのにぎやかな会となりました。サンタクロースとの写真撮影、素敵な演奏、南京玉すだれ、皿回し、バルーンアート、ビンゴ大会に子供たちは夢中。また、12月25日(火)の昼食には、栄養治療部によるクリスマスメニューがふるまわれました。



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第56号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL：077(548)2012(総務企画課)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



●理念を実現するための 基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・安心・満足を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- グローバルな視点を持ち、人間性豊かで優れた医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します